4. 豊かな心と活発な交流を育む多彩な文化のまち

1. 地域文化・伝統文化の継承と発展

1. 歴史文化施設への入館者数

令和6年度の昭和レトロ館の来館者増要因としては、前年に実施した「CAPCOM VS 手塚治虫キャラクタ ーズ」の効果に加え、ノベルティの充実によってリピーターが増加したことも挙げられる。

郷土資料館の来館者減の要因としては、区制 90 周年事業企画展(R4 年 5 月~8 月)、特別展(R4 年 10 月 ~令和5年5月)が終了し、通常展示になったためと考えられる。



※ 令和2年11月9日~令和3年3月31日、雑司が谷旧宣教師館は文化財保存修繕のため休館 ※ 令和3年9月27日~令和4年1月31日、郷土資料館は倉庫資料移転のため休館

出典:文化事業課作成資料

基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館・トキワ荘通り昭和レトロ館の来館者数【人】	107,450	134,000

2. 文化芸術への参加・創造の機会の創出

1. 区立劇場、ホールの年間来場者数の推移

令和6年度、区立劇場は予定していた公演の中止や公演内容による利用減、ホールはメンテナンス日が多 かったことによる開館日数減などにより来場者数が減少している。



※区立劇場は豊島区立舞台芸術交流センター 及び豊島区立芸術文化劇場、ホールはとしま 区民センター多目的ホール及び小ホール、野外 劇場は池袋西口公園野外劇場の総利用者数

出典:各指定管理者事業報告書及び聞き取り調査

基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
区立劇場、ホールの年間来場者数【万人】	35.2	50.9

2. 豊島区の文化政策

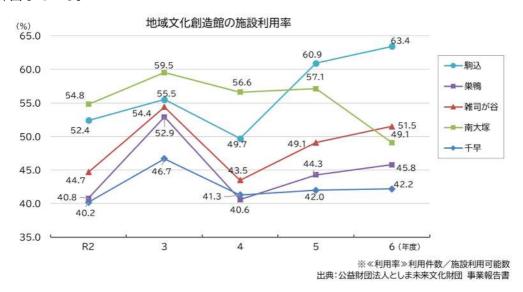
事業名〔主催者〕	事業の概要および開催状況							
次世代育成事業 公益財団法人 としま未来文化財団	次世代を担う幅広い年代を対象に行っているワークショップ。音楽や演劇などさまざまな芸術に出会い、体験し、様々な自己表現の方法を学び創造活動を行うことを通じて、豊かな感性を培い、次代の文化を担う人材の育成を行っている。 令和6年度は、乳幼児とその保護者を対象に、アートを通したコミュニケーションを目的に実施した「0.1.2.のおもちゃ箱」を春夏期(音楽)と秋期(身体表現)に実施。夏休みには、子どもたちの創造性を引き出し自身の表現を行う帽子づくりワークショップ「ハッと!キャップ大作戦!」と、親子コンサートに連動した「エイサー体験」のワークショップを実施した。鑑賞型事業として、沖縄・石垣島出身のアーティストを招聘し、同じく沖縄出身のイラストレーターの絵とともに楽しむコンサート「おーりとーり! おきなわサマー」を実施。クリスマスには、昨年に引き続き、パフォーマンスカンパニーto R Mansionによる新作「Miracle Xmas Circus HYPER!!」を上演した。関連事業として、ベイビーシアターである「Miracle Xmas Circus BABY!!」そして、サーカス体験ができるワークショップ「Miracle Xmas Circus CHALLENGE!!」も同時に実施。多くの子どもたちが参加した。毎年実施している区内児童施設連携事業では影絵パフォーマンスを行う「かかし座」による公演を区内4か所のスキップで実施。さらに、恒例となっている「こども日本舞踊教室」では、1・2年生、3~6年生の2チームに分かれて行った。							
	◎参加人数	R2	R3	R4	R5	R6		
		473人	1,130人	1,555人	2,313人	2,526人		
としま能の会 公益財団法人 としま未来文化財団	らい、理解を深め、注 令和6年度は、前 問コーナー等を通し	欠の世代 年度に引 て、日本	だに伝えてい き続き、能能の伝統芸能	くことを目的 楽師を、区内 をより身近*	に開催。]の小学校に で体験できる	派遣した。 るようなアウト	は芸能を区民の方に親しん 実演とワークショップ、そし 、リーチ事業を実施した。	
	(入場者数)	R2 536人	R3 336人	R4 844人	R5 599人	R6 490人		
民俗芸能inとしま 公益財団法人 としま未来文化財団	島区に伝承される「 無形民俗文化財)の 令和6年度は、西 鼓に加え、年始に発 が出演。音楽ライブ	富士元にほか近 コ公園の 生したが では、人 の物産則	離子」「長崎 隣地域や姉り ブローバルリ 震災からの後 、気の高い民 反売も行い、	師子舞」「雑 味都市、友好 ングで開催。 夏興支援とし 謡クルセイク	司ヶ谷鬼子 ・交流都市は ・区内の民俗 て、輪島の領 ダーズが出海	母神お会式 こ伝わる民俗 子芸能団体と 即陣乗太鼓と し、会場が	に、平成元年から毎年開催 万道練供養」(いずれも区 斉芸能も上演。 斉芸化を上演。 、、珠洲のちょんがり節の2 大いに盛り上がった。会場 者が多くいた。関連事業と	指 鬼団内で
	◎参加人数 (入場者数)	R2	R3	R4	R5	R6		
	2,	223人	110人	1,216人	3,024人	2,016人		
豊島区管弦楽団・ 吹奏楽団演奏会 公益財団法人 としま未来文化財団	楽しんでいただく公 の交流を図る。 令和6年度、管弦等 た。これは、コロナ福	演を目れ 楽団は、 動で中止 者から好	指し毎年開催 区民参加の となった公園 子評をいただ	催。文化芸術 第九合唱団 演を再構築し いた。続く5	に対する理! と共に、4月2 たものであ	解と創造意行 29日に豊島 り、多くの出	D区民を対象に、気軽に演 次を促進し、文化を通じた 区第九演奏会(管弦)を実 演者と豊島区管弦楽団の ンサート(吹奏楽)と題し、「	相互 施し 演奏
	◎参加人数 (入場者数)		R2	R3	R4	R5	R6	
	Î	学弦	373人	413人	929人	842人	1,664人	
		次奏	279人	279人	725人	741人	892人	
としま文化の日 都響スペシャル コンサート 〔 豊島区〕	「としま文化の日」と 繋げる活動を進める 令和5年度から実 場に、子どもから大。 のメンバーが、豊潤 ◎参加人数 (入場者数)	定める「 ため、 施してい 人まで楽	としま文化の 記念事業を集 いる東京都る そしめる特別	0日条例」を特別を特別を特別である。 で響楽団とのな弦楽アンサ	制定した。こ 。)スペシャル: ナンブルのコ	の条例に基 [*] コンサートは ンサート。日	の開業を記念して、11月1 づき、豊島区の文化を未来 、豊島区立芸術文化劇場 本を代表する東京都交響 ソンまで演奏する。	そへと を会
としま文化の日 としまっ子フェス Jimokids 豊島区	業・団体やアーティンログラムを展開。子 創出。	ストが中	い心となり、も	のづくりやて	アート、プロク	グラミング、 []	ークショップイベント。地域 方災ゲームなど、多様な体 目指し、親子で楽しめる機	験プ

出典:文化企画課·文化事業課作成資料

3. 学習活動の支援を通じた生涯学習の推進

1. 地域文化創造館の施設利用率

令和2年度は、令和2年4月1日から6月7日まで貸出中止、1月8日~3月31日までは夜間の貸出中止となった。令和3年度は令和3年4月1日~24日までは夜間貸出21時まで、4月25日から5月31日まで貸出中止、6月1日から9月30日までは夜間貸出を20時までとした。南大塚地域文化創造館を除く4館は、8月1日~11月30日までワクチン接種会場となった。令和4年度以降は、感染症対策による貸し出し中止はなかった。南大塚地域文化創造館は、令和5年9月から令和6年11月まで、施設改修工事により休館しているため、利用率は令和6年12月から令和7年3月の値で算出している。千早地域文化創造館は、令和6年11月より改築工事により令和9年春ごろまで休館しているため、利用率は令和6年4月から11月の値で算出している。



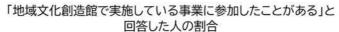
2. 地域文化創造館利用団体登録数(一般団体を除く)

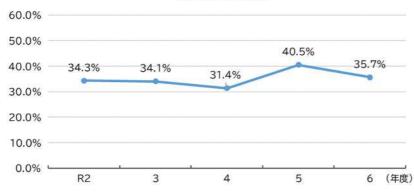
令和6年4月1日付の要綱改正により、これまで3年ごとに行っていた、一般団体を除く利用団体の再登録(更新)を5年ごとに延長した。(次回は令和8年度末を予定。)令和3年度末の更新時は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動を休止した団体があり、令和4年度以降の数が減少したが、休止していた団体も戻りつつあり、令和6年度は前年度を上回る登録数となった。



3. 地域文化創造館で実施している事業への参加状況

地域文化創造館では、年間を通じて多岐にわたるジャンルの区民向け生涯学習講座(文化カレッジ)などを実施している。この講座をきっかけに、サークル活動につながることもあり、学びの入り口となっている。



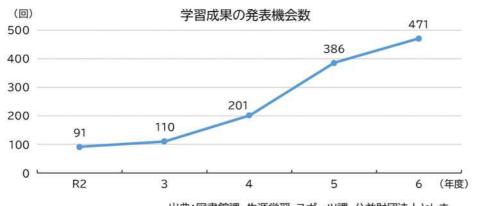


出典:地域文化創造館 利用者満足度調査

基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
「地域文化創造館で実施している事業に参加したことがある」と回答した人の割合【%】	35.7	43.5

4. 学習成果の発表機会数

学習の成果として、生涯学習関連施設での文化祭や発表会への参加や展示、講座での講師や学習支援者として活動は、学びの成果を地域に還元できることや学習活動をしている人と人、人と活動、活動と活動がつながる機会となっている。新型コロナウイルス感染症による学習活動の中止で、発表の機会が一時減少していたが、回復傾向にある。



出典:図書館課、生涯学習・スポーツ課、公益財団法人としま 未来文化財団作成事業報告書などによる資料

基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
学習成果の発表機会数【回】	471	535

5. としまコミュニティ大学

10

0 4

R2

3

講座開催数

区内大学との包括協定により、各大学の特色を活かした講座が提供され「誰でも、いつからでも学べる」環境が作られている。また、登録して学ぶしくみ(マナビト1年生・2年生・研究生)により、幅広い年代がライフスタイルに合わせて学ぶ「継続的な学びの場」が醸成されている。学習ネットワーク構築の支援により、学びを通じた仲間づくり・地域づくりが進んでいる。

(開催数:件) (受講者数:人) 100 2,500 2,216 2,199 90 80 2,000 1,846 1,825 1,720 70 60 1,500 50 40 79 79 1,000 70 66 30 52 20 500

4

としまコミュニティ大学講座開催数・受講者数

出典:生涯学習・スポーツ課作成資料 「としまコミュニティ大学講座プログラム開催実績表」

→ 受講者数

5

6 (年度)

【としまコミュニティ大学とは】

平成 19 年「豊島区と区内大学(学習院・女子栄養・大正・帝京平成・東京音楽・立教)との連携・協働に関する包括協定」により開講し、平成 28年度から川村学園女子大学も加わった。

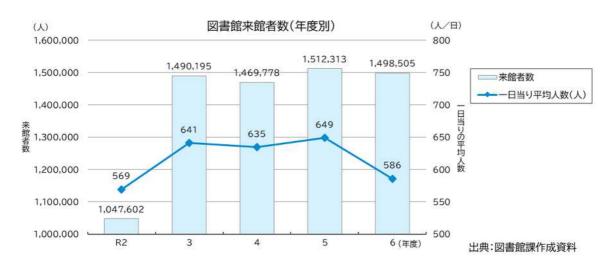
としまの街全体をキャンパスに見立て、各大学 提供の講座をカリキュラム編成し、年間プログラ ムで実施している。(学校教育法等で定める正規 の大学ではない)

学びを通じて人と人がつながり、活動へとつながり、いきいきとした地域づくりにつながる「学びの循環(わ)」の中で、様々なタイプの地域(街・社会)文化の担い手づくりを目指す総合的な学びの場である。

4. 多様な役割を持つ新たな図書館の実現

1. 図書館来館者数の推移

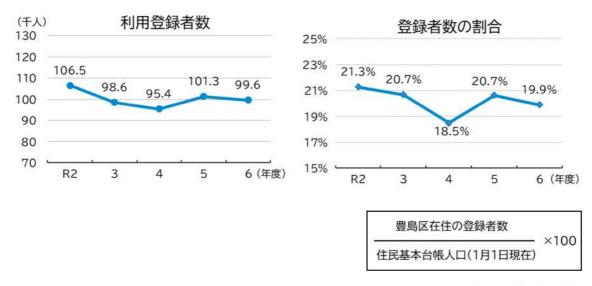
コロナ禍により利用者数が大きく落ち込んだが、回復傾向である。



基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
図書館来館者数【人】	1,498,505	2,000,000

2. 利用登録者数と割合の推移

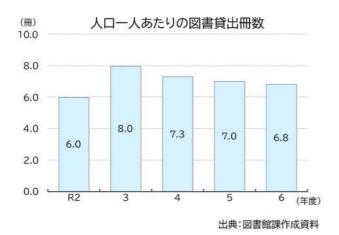
令和2年度以降、新型コロナウイルスの影響により、図書館利用者カードの新規登録者数や更新件数が減少していたが、5年度から増加に転じた。6年度が減少に転じたのは上池袋図書館が改築のため閉館している影響が考えられる。



出典:図書館課作成資料

3. 図書貸出冊数の推移

令和4年度は人口一人あたり、登録者一人あたりの図書貸出冊数が減少している。それにともない、全体の貸出冊数も減少している。6年度は上池袋図書館が改築により休館しているため貸出冊数に影響が出ている。



(冊) 登録者一人あたりの図書貸出冊数 25.0 20.0 15.0 23.1 22.2 20.0 20.3 10.0 16.2 5.0 0.0 R2 3 4 5 6 (年度) 出典:図書館課作成資料

図書館貸出冊数の推移



出典:図書館課作成資料

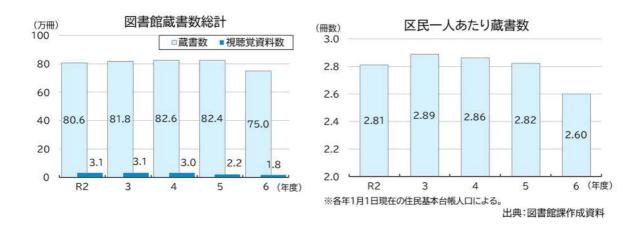
脚注

- ・平成29年4月 池袋・目白・千早図書館の開館日を拡大。 池袋・目白図書館 平日の開館時間を1時間延長。
- ・平成31年12月29日~令和2年1月13日 図書館システム入替のため、 全館臨時休館
- ・令和2年3月2日~6月27日 新型コロナウイルス感染症予防対策に伴う図書館一部サービス休止
- ·令和2年10月1日~令和3年3月31日 池袋図書館改修工事

基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
図書貸出件数【冊】	2,027,486	2,300,000

4. 図書館蔵書数・区民一人あたり蔵書数の推移

図書館の蔵書総数は上池袋図書館が改築に入り、蔵書を減らしたため、大きく減っている。



5. 人口千人あたりの図書館蔵書数の23区比較

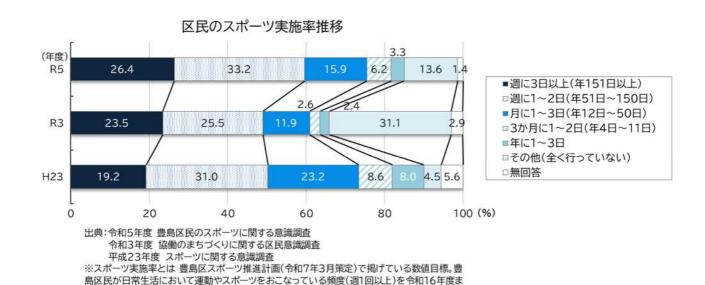


出典:【人口】R7年1月1日現在住民基本台帳より 【蔵書数】特別区の統計 令和6年版(特別区協議会)より

5. 生涯を通じたスポーツ活動の推進

1. 区民のスポーツ実施率

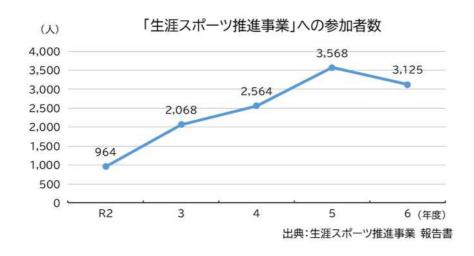
平成 23 年度の調査では、週に $1\sim2$ 日以上運動する人の割合が約 5 割となっている。10 年後となる令和 3 年度の調査でも、週に $1\sim2$ 日以上運動する人の割合は約 5 割と同水準であったが、令和 5 年度に実施した調査では 59.6%と 6 割に迫る数値となっており、区民のスポーツ実施頻度の向上傾向が継続して見られる結果となっている。



2. 生涯スポーツ推進事業への参加者数

でに70%へ高めることを目標としている。

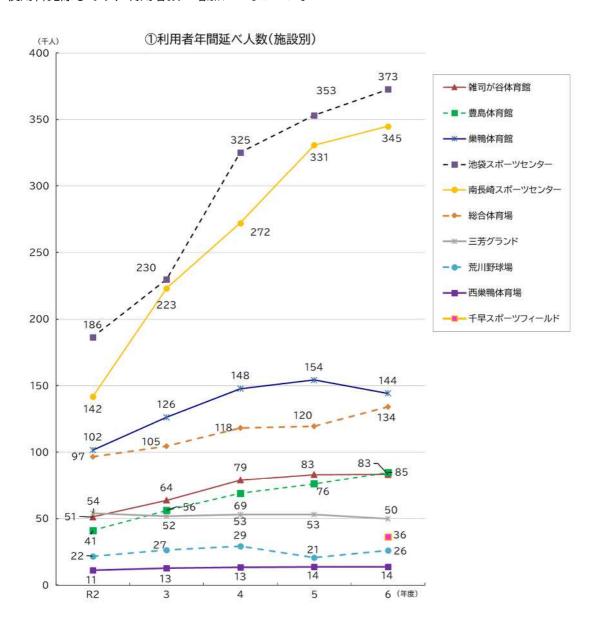
「いつでも、どこでも、いつまでも」できるスポーツの推進として、生涯スポーツに取り組む事で、子どもたちの育成、成人・高齢者の健康増進等を図ることを目的としている。各種スポーツ教室、親子スポーツ教室、スポーツリーダー講習、シニア向けの講習など誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことができる環境を創出している。



基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
「生涯スポーツ推進事業」への参加者数【人】	3,125	5,250

3. スポーツ施設の利用状況

スポーツ施設の利用者数については、平成 28 年度以降は増加傾向にあるが、令和元年度以降は、新型コロナウイルス感染予防対策に伴う臨時休館及び利用制限により減少している。なお、令和3年度以降の利用者数は前年度と比較すると回復基調にある。令和6年度については、千早スポーツフィールドの開設や児童の使用料免除もあり、利用者数の増加につながった。



②利用者年間延べ人数(利用区分別)

利用区分 R2年度 R3年度 R4年度 R5年度 R6年度 団体 244,115 296,483 342,574 396,951 220,300 個人 319,845 380,775 480,769 564,693 577,964 一般 250,673 287,057 361,350 429,183 429,060 小・中学生 14,502 26,686 33,903 37,143 30,481 (内訳 減額 38,285 45,736 57,743 69,342 74,773 免除(小・中) 9,289 免除(高校生) 4,097 16,385 21,296 27,773 30,264 免除 29,025 自主事業 165,444 270,209 297,534 330,363 315,029

1,107,615

895,099

全施設合計

705,589

出典:生涯学習・スポーツ課作成資料(指定管理者の報告に基づく「体育施設利用状況」より)

1,204,801

(単位:人)

1,289,944